



総合人間自然科学研究科 高知大学大学院

修士課程 理工学専攻

【地球環境防災学コース】

お問い合わせ先 修士課程 理工学専攻

高知大学学務部入試課大学院担当

TEL: 088-844-8154

FAX: 088-844-8147

所在地

〒780-8520 高知市曙町2-5-1

交通案内

●高知龍馬空港から

車で約45分

空港バスで約35分「はりまや

橋」か、約40分「JR高知駅」

下車→バス、路面電車または

JR土讃線へ乗り換えが必要

●JR高知駅から

車で約20分

バスで約25分

路面電車で約30分「朝倉（高

知大学前）」下車

JR土讃線で約15分「朝倉

駅」下車、徒歩3分

高知ICから車で約30分

伊野ICから車で約5分

高知大学HP

<http://www.kochi-u.ac.jp>



大学院入試情報

<http://nyusi.kochi-u.jp/daigakuin>



目指せ地球のお医者さん! 実社会では経験できない充実の2年間

地球環境防災学コースの教育方針

地球環境と自然災害に関する基礎及び専門知識と課題探求能力を身に付け、最先端の研究を通じて、自然が関わる事象(環境・防災・減災・地域作り)に対し、適切な課題設定のもと問題解決する能力を備えた国際的に貢献できる高度専門職業人及び研究関係従業者を育成します。

地球環境防災学分野で学んだ学生は社会の様々な場で活躍しています。

就職先 (過去4年間)

一般企業:建設コンサルタント(エイト日本技術開発、応用地質、川崎地質、基礎地盤コンサルタンツ、建設技術研究所、国土防災技術、ニュージェック、四電技術コンサルタント、パスコ、CPC等)、ゼネコン(五洋建設、日特建設等)、メーカー(日立造船)、その他(日本気象、日立ソリューションズ、NTTデータシステム技術)

公務員等 (過去4年間)

高知県、香川県、徳島県、京都府、兵庫県等県職員、高知市等自治体職員
教員(高知県、京都府、静岡県、広島県等の公立学校)、職員(東京大学)
大学院博士課程進学(京都大学、名古屋大学、九州大学、愛媛大学)

大学院での生活に関すること

学士課程で学んだ数学、自然科学、防災技術及び語学に関する基礎知識と地球環境、自然現象の発生機構、防災に関連する分野の専門知識を発展させ、地球上の自然現象や環境・資源と、自然災害リスクが人間生活に及ぼす影響などの興味関心を高め、修得した知識と技能を社会的問題の解決のために活用することができます。フィールドワークや室内実験などから地球環境の変化や災害リスクを分析・評価し、自然災害への対応策を実社会に還元することができます。



在学生の
コメント

しば はら
柴原

りゅう
隆

地盤防災学(原)研究室所属

大学院では学部時代に培った地盤工学に関する知識を生かし、安価でエコな防災施設の開発に取り組んでいます。ネパール国を対象に、蛇籠擁壁の耐震性を向上させ、JICAの支援を得ながら、大地震や豪雨災害から住民の命や生活を守るための土木施設を海外で施工し、その効果を検証しています。開発途上国での現地調査や現地技術者を交えた国際ワークショップへの参加など、学部生では経験できないような壮大な研究に携わることができ、やり甲斐を感じています。

研究領域・内容

地球物理学

田部井 隆雄	【教授】 測地学・地震学	宇宙測地技術を用いたプレート運動および地殻変動の精密計測とモデリング
佐々 浩司	【教授】 流体力学・気象学	レーダー観測と室内実験を主体とした大雨、突風の発生メカニズムの研究
大久保 慎人	【准教授】 地球物理学・地震学	地震動波形記録を用いた震源破壊過程・地球深部内部構造の研究
村田 文絵	【講師】 気象学	大雨をもたらす降水システムに関する研究

地球物理学的手法を用いて地震学、測地学、気象学、連続体力学の観点から自然現象および自然災害の発生メカニズムの教育研究を行います。高感度・広帯域地震動観測や稠密GNSS観測を通して、プレート運動・地震活動・地殻変動など固体地球表層部の変動の解明を目指します。また、本学独自の二重偏波レーダーネットワークや気象衛星による観測および、モデル実験を通して、竜巻、ダウンバーストなど突風現象などの発生メカニズムと、豪雨をもたらす降水システムの発生・維持メカニズムの解明を目指します。

地質学

橋本 善孝	【教授】構造地質学・ 断層岩物質科学	沈み込みプレート境界地震発生過程の地質学的・物性物理学的研究
池原 実	【教授】 古海洋学・有機地球化学	新生代における全地球気候変動の復元とメカニズムの解明
山本 裕二	【教授】 古地磁気学・岩石磁気学	地質試料の残留磁気記録に基づく古地球磁場変動の解明
川畑 博	【准教授】 岩石学・火山層序学	マグマの発生・進化に関する地質学的・岩石学的研究
松岡 裕美	【准教授】 地質学	海底、湖底堆積物を用いた地震履歴の研究
藤内 智士	【講師】 地質学・構造地質学	地質試料や模型実験を用いた地殻の変形に関する地質学的研究
長谷川 精	【講師】地質学・堆積学・ 古気候学・惑星地質学	堆積学・地球化学分析から過去の地球の気候変動と惑星環境の解明

46億年に及ぶ地球の変動史について、地質学(岩石学、層位学、古海洋学、古地磁気学、構造地質学など)の観点からその変動様式や変動要因を解明し、過去から現在、更には未来における地球環境の変遷を考察・予測します。フィールドワークを重視した教育研究を行います。

鉱物学

中川 昌治	【准教授】 鉱物学・鉱床学	粘土鉱物とその鉱床、および四国付加体の岩石・鉱物に関する鉱物学的・地質学的研究
熱水変質作用や風化作用により生成する粘土鉱物とその鉱床、四国の付加体の中に生成している岩石・鉱物、環境汚染問題や自然災害に関係する鉱物について、鉱物学的諸性質や地質学的生成過程に関する教育研究を行います。		

土木工学

笹原 克夫	【教授】 砂防学・斜面防災工学	降雨による斜面崩壊発生メカニズムとその予測手法
野田 稔	【教授】耐風工学・構造 工学・振動学・流体力学	強風下における土木・建築構造物の対風応答評価と耐風設計法に関する研究
原 忠	【教授】 地盤工学・地盤耐震工学	地盤災害の発生要因と対策法に関する研究
張 浩	【准教授】 防災水工学	流域における水・土砂災害と環境保全に関する研究
坂本 淳	【講師】防災計画学・土木 計画学・都市・交通計画学	大規模災害に備えた道路ネットワークの復旧計画に関する研究

工学的手法を用いて斜面防災工学、構造工学、地盤工学、水工学および計画学の観点から教育研究を行います。斜面崩壊発生の力学的なメカニズムの解明と斜面モニタリングに基づく崩壊発生予測方法の開発、強風・地震等の自然外力による土木構造物の動的挙動の解明・予測と設計法の開発、地盤の変形性や液化化現象の解明と地盤災害を軽減するための防災・減災技術の開発、洪水・土砂災害の発生機構の解明と防災・減災技術の開発、災害時の避難行動のメカニズムの解明と被害最小化のための情報提供手法の開発などを行い、各種自然災害への備えの高度化を目指します。

建築工学

山田 伸之	【准教授】地震工学・地盤震 動・災害科学・安全・防災教育	地震動や構造物の耐震性の評価など「地震の揺れ」による災害の軽減化に関する研究
野口 昌宏	【講師】 建築構造学・木材利用学	構造物の耐震補強法やより安全で快適な建築構造物の開発に関する研究

工学的手法を用いて、耐震工学、木質構造学など建築学の視点を包含した内容を取り扱います。この領域では、設計入力に関わる強震動の特性解明や予測、建築構造物の被害評価や耐震補強方法など、地震等による人的・物的被害の軽減化や関連する諸問題の解決を目指す教育研究を行います。